

日本物理学会男女共同参画推進委員会66期活動報告

日本物理学会 (笹尾真実子・同志社大・msasao@mail.doshisha.ac.jp)

Recent Activities of Gender Equality Promotion Committee of the Physical Society of Japan

Physical Society of Japan (Mamiko Sasao・Doshisha University・msasao@mail.doshisha.ac.jp)

Abstract: The Gender Equality Promotion Committee of the Physical Society of Japan was established in 2002, aiming intensive discussion on the significance of gender equality promotion, and actions for it, activities for the next generation male and female scientists, and improvement of the environment for men and women in science. The major activities of 2010-2011 year are the followings; (1) we organized a half-day symposium on the “Work-Life Balance of People Who Work for Physics”, at JPS annual meeting in Niigata, Mar. 2011, which was canceled due to the earthquake on March 11 2011, (2) we sent a delegation to AAPPS 2nd Workshop on Women in Physics (Shanghai, November 2010) and the 4th IUPAP International Conference on Women in Physics (South Africa, April 2011), and (3) we participated in Summer School for female high school scientists (Tokyo, August 2011).

＜はじめに＞ 2002年に設立された物理学会男女共同参画推進委員会はまもなく10年になる。この間、委員会は物理学会内の活動に加え、男女共同参画学協会連絡会や国際学術機関との交流をはかるなど、男女が共に歩む豊かな社会の実現を目指して国内外で活動を行っている。以下は今年度(2010-2011)の活動の概略である。

＜ワークライフバランス＞ 今期は、女性研究者育成の障害の一つとなっているワークライフバランスの問題を取り上げた。「長い仕事時間／少ない生活時間」は、女性だけの問題ではない。最近の大規模アンケートの分析や、その他大学等のアンケートでは、男女を問わず、大学の用務の締め切りやプロジェクトのスケジュールに追われてきている現実が見えてきている。このままでは「人間らしい生活」も「質の高い研究時間」も確保できないのではないか？このような視点で、年会において企業での最近の傾向を把握し、研究所や大学のアンケート結果の報告を得て、男性・女性物理研究者のワークライフバランス、子育て中研究者の現状を分析するシンポジウムを企画した。実際には東北大地震のため実施できなかったが、その後の学会でインフォーマルミーティングを開催し、問題の把握と分析のための活動を開始した。

＜国際学術機関との交流＞ 2010年11月13-14の2日間にわたり、AAPPS 2nd Workshop on Women in Physicsが上海交通大学において開催され、日本物理学会から3名、応用物理学会か

ら1名代表を送り、基調講演と分科会での講演、議論を行った。アジア諸国にはそれぞれの問題があり、国際的な視点でそれらについて活発な議論があった。また、2011年4月には、5-8日の4日間にわたり第4回IUPAP International Conference on Women in Physicsが南アフリカで開催され4名の代表を送った。この大会には、59ヶ国からの参加があったが、女性研究者に固有な活動目標を持つ議論が主であり、男女共同参画の視点からの捉え方はあまりなかった。この意味では一歩先んじているはずの日本であるが、国内女性研究者比率を各国のそれと較べると日本は先進国中で最下位であるという現実があり、さらなる活動の必要性が認識された。これらの活動の中で、日本物理学会と応用物理学会の連携の必要性が認識され、連絡会を立ち上げる事となった。

＜連携活動＞ 中高校生をはじめとする未来の研究者への取り組みとして、「女子中高生の夏の学校」に参加し、Study Physics, Be cool in hot! 「物理を学んで災害で混沌(hot)とした社会を賢く(cool)生きよう！」というテーマでポスター参加を行った。

参考文献

男女共同参画推進委員会だより 「AAPPS 2nd Workshop on Women in Physics 報告」(日本物理学会誌第66巻第4号, p303)